

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 慶應義塾大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅰ))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

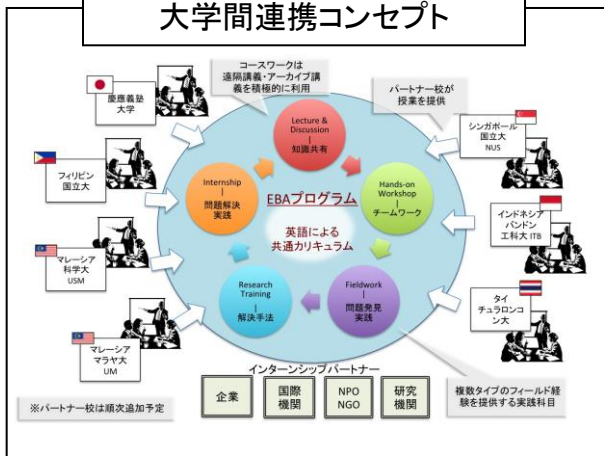
## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

## 【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN、7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

## Evidence Based Approach 大学間連携コンセプト



## コンソーシアムの形成と大学間連携(左図)

- コンソーシアム参加大学は、実践力養成を重視したEBAコースを共同で構築し、それぞれの大学がその強みを生かした授業を相互に提供。
- ASEAN諸国の学生と日本の学生が、サイバーおよびフィジカルに、共に学ぶ環境を提供。特に、サイバー上のインタラクティブ講義配信ならびに研究指導と相互訪問を組み合わせるこの事業のアプローチ自体が、ASEANの広い地域にわたる課題に共同作業により取り組む方法の実技演習的な性格を有す。
- 専門分野に関連した研究機関、国際機関、NPO/NGO、企業など、多様な形態のインターンシップ受入先をコンソーシアムパートナーとして組織化し、適切な組織における幅広い問題解決現場を提供。

## 平成24年度の成果:

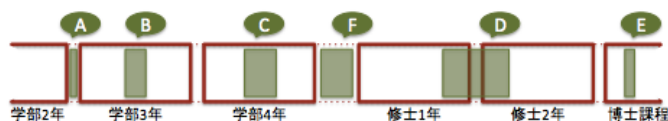
- 第1回パートナー大学全体会議を実施(6大学17名参加)
- パートナー大学代表者によるカリキュラム委員会/コーディネーション委員会/運営委員会を発足させコンソーシアムの設立に合意

## 学部・修士一貫コース(右図)

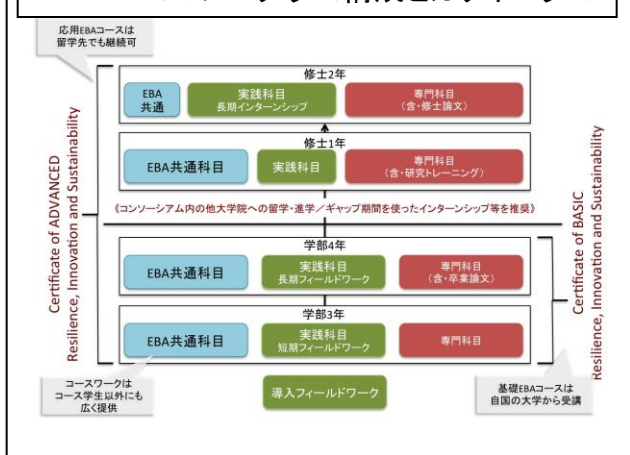
- 前半を学部向け基礎EBAコース、後半を修士課程向け応用EBAコースとして設計。基礎EBAコース修了で、“BASIC”、基礎+応用EBAコース修了で“ADVANCED”の2種類のサティフィケートを付与。
- 修士への進学時に、コンソーシアム内の他大学院への留学・進学やギャップを利用したインターンシップへの参加を推奨。(※本プログラムでは支援対象外)
- 応用EBAコースで実施する長期インターンシップによって、修了後のキャリアパス設計を支援。
- 「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」に関する専門知識構築のための専門科目群とResilience, Innovation and Sustainabilityを重視した解決能力育成のための共通科目、およびフィールドの理解を醸成し、現地活動を行う実践力養成のための実践科目群より構成。ASEAN諸国の言語を含む文化教育も重視。

## 平成24年度の成果:

- EBA共通科目実施に向け遠隔講義環境の構築
- ヤマハ(株)とインターンシップパイロットプログラム実施



## EBAコース プログラム構成とカリキュラム



## 多様な派遣プログラム(左図)

- 導入教育短期研修プログラム(学部2~3年)
- 基礎EBAコース(1):短期フィールドワーク(学部3年次)
- 基礎EBAコース(2):長期フィールドワーク(学部4年次)
- 応用EBAコース: 長期インターンシップ(修士1~2年次に実施)
- 専門派遣:実践科目支援のための派遣プログラム(後期博士課程学生)
- 留学:基礎+応用EBAコース修了後パートナー校へ留学を推奨。(ギャップタームの各自の活用も推奨)

## 平成24年度の成果と今後の計画:

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	40	50	55	60
学生の受入	4	30	45	55	55

24年度 派遣:インドネシア/カンボジア 受入:インドネシア/マレーシア